

(保存版)

『50. 240MHz SSBモバイルグループ』

(240の歴史、その生い立ちから現在へ)

1997年6月

J J I S X A

池 宏 昭

『240物語』

(50. 240MHz SSBモービルグループの誕生)

昭和56年1月18日、この日、50. 240MHzが連絡周波数に設定され、50. 240MHz z SSBモービルグループの第一歩が踏み出されたのです。モービル局の源流は、50MHz z だったそうですが、当時のモービル局と言えは、144MHz z のFMが主体で、50MHzモービル局は大変少なく、それも殆どがFM局だったようでした。(まだレビーターも無い頃だったので、430MHzのモービル局も少なかった。)

そんな中で、50MHz SSBをモービル局から運用している局は、極々小数派だったと思います。

何しろ、適当な車載機も少ないし、当時の車はノイズだらけという状態だったので、固定にアンテナを上げられないとか、家族との関係で、固定での運用は無理とか、或いは、長時間モービル移動の仕事をしているが、家に居る時間は少ないといったような局が、どうしても50MHzのSSBをやりたいという事で、止むなくモービルから運用という訳で、モービル局同士のQSOをしようとか、モービル局の、通信距離を伸ばしてみようなどとは思っていなかった時代です。

昭和55年の後半、そんなモービル局同士が、たまたまQSOできて、他にも、モービルからSSBをやっている局も、何局かいるのに気付く、他局の設備や設置方法、ノイズ対策等の興味から、一度、皆でアイポールをして情報交換をしましょうと、JL1PPM局、JH1DUS局の肝入りで、調布飛行場に集合となった訳です。

ちなみに、私が、五日市街道を、小平方向から立川に向けて走行中、三鷹モービルのJL1PPM局とのQSOで、国分寺に入った頃に、メリットも悪くなり出し、尻切れにならない内に、早くファイルにしましょうと言うような時代でした。

ともあれ、アイボールは盛り上がり、モービル局同士の共通周波数（連絡周波数）を設定しようと言う事になったのです。

当日集まった、十数局（中には、現在も活躍している、JL1MUB局もいましたし、私も、JJ1SXB共々出席）の、使用リグ、アンテナは、発売間もないFT680を積んだ局が3局、後はTR1300、LS60、IC502、RJX610、TS600等（まだ、TR9300や八重州のFT690は発売前だった）で、アンテナは1/4と3/8が半々位と記憶しています。又、当時の50MHzSSBバンドの使用状況は、50.100MHz位から、50.200MHz位までが、主に使われており、Eスポ発生時や、日曜日等の、サービス局が出る時でも、せいぜい50.250～300MHz位までで、50.300MHz以上が使われる事は少なかったようでした。

連絡周波数の条件として考えたのは、余り、固定局（JCC等を稼いでいる局等）の邪魔をしない事（モービル局は移動しているので、最初は大丈夫と思っていたても、どんどん、接近して混変調を与える可能性がある）、逆に、固定局からの混変調を受けない事、混変調がある時は、10KHz位はQSYできる事（何しろ、当時のリグは混変調に弱かった）、モービル局は、まだ少ないので、CQを出しても、モービル局がいない場合は、他の固定局からも相手をしてもらえる事、同時に各局の使用リグの内、TR1300は、50.250MHzが、使用できる上限だった事等あいまって、50.240MHzが、現時点では最良のポイントという結論に達し、ここに連絡周波数が決定したのです。

（定時交信とロールコール）

連絡周波数が決定し、各局張り切ってみたものの、矢張り少数のモービル局では、お互いに、中々QS0のチャンスに恵まれず、何とかしなければと、考え出されたのが、毎時00分から、約5分間位は、できるだけモービルから声をかけ合いましょうという、いわゆる定時交信の決まりができ、夜間帯固定にいる時も、できるだけ240で声を出して、240をアピールしていきましょうとの申合せもできました。

又、QS0のチャンスも少ない事から、その後の消息を確かめ合いましたという事で、JJ1IUU局がキー局となり、毎週月曜日の21時から、同周波数でのロールコールが始まり、現在に引き継がれています。

定時交信や、ロールコールのお陰で、モバイル局同士のQS0も多くなると共に、仲間もどんどん増え、その内、深夜までラグチューに花の咲く連日で、タヌキワッチをしていたJA1WSE局が、可笑しな話に、思わず声を出してしまい、仲間入りをしたのも、懐かしい思い出です。

(5/8ラムダ・ホイップアンテナの普及と通信距離の伸長)

各局が、アンテナを1/4から、3/8に替えようかという頃に、JJ1IUU局自作の5/8のアンテナは、耳の良さも、電波の飛びも、誰にも比して群を抜いていました。

私も、JA1IXS局、JM1FKD局に続き、5/8を付け、すぐ後には、JJ1SXBのシルビアにも付けました。

最初は、余りにも長いので、恥ずかしく、抵抗感がありましたが、その威力は素晴らしく、各局を羨ましがらせ、やがては、5/8を使う局も続々と増え、一時は240グループの標準装備とまで言われ、ある時期は、他エリアの局も加えると、60局近くが、あの長いアンテナをなびかせてモバイルを走らせていました。

初期の頃、仲間を増やす為、遠くから1/4のアンテナに2.5ワットとか、5ワットのリグで送信のモバイル局を相手に、時には、イヤホーンで受信、50ワット送信というスタイルでQS0、ある時は、1/4にピコ6のモバイル局が、こちらの50ワットを受信できないと言うのを、こちらではしっかり受信して、驚かせた事もあります。

5/8アンテナの普及と共に通信距離も飛躍的に伸長し、それまでの、モバイル局同士では15Kmから20Km位が限度とされていた

のを、30Kmはおろか、50Kmは当然といった風潮となり、やがては、100Kmをモバイル局同士で常時交信というのが目標となりました。話は少しそれますが、当時の固定局のアンテナは、6エレ以上の八木アンテナを使っている局は、まだ少なく、GPとか4エレ八木位の局が多く、まごまごすると、そんな固定局に勝っていた時期もあり、240グループは、違法なQR0でやっているのでは無いかと、陰で噂された時期もありました。

後に、5/8ホイップアンテナの調整は、JM1JLK局に引き継がれ、一手引受で、一生懸命各局の面倒を見ていました。

(CW講習会)

240グループのスタートから、1年位経った頃、仲間が大分増え、上級資格の局の占める比率も多く、当時の電話級の資格者が、CWを覚えて上級資格に挑戦したいと希望する声が大きくなり、毎夜21時(ロールコールの有る月曜日は22時)から、50.240MHzで、オンエアーのCW講習会が始まりました。

講師は、当初JM1SZI局にお願いしていたのですが・間もなく、TVI等の関係で継続できず、私が替り、相当長期間に渡り、連日頑張りました。

講習会が始まってから、勉強を始めた局の中から、2アマ、1アマに合格した局も多く出ましたが、その頃に、JJ1SXBが、240グループ女性第1号の1アマ合格者となり、更に、各局ハッスルしました。

以前、大分永い事、ロールコールのキー局をやっていた、J01VYA局も、そんな中の一人で、講習会で、一から始めたCWも、ハイスピードの和文をやるまでに、そんなに期間を要しなかったと思います。

余談ですが、黙って、この講習会を聞いて勉強し、「お陰様で、2アマに合格しました」というお礼状を、QS0した事の無い局から、何通か戴き驚きました。

(ミニコミ誌 TWO FORTY)

現在も発行されている、ミニコミ誌 TWO FORTY第1号は、JN1PYA局の尽力により発刊されたのですが、色々の事で、一時休刊という事になりましたが、頑張っていたのは、当時240若手三羽鳥と言われた、JK10XY局、JN1TLF局、JQ1DEC局で、休刊になるまで、彼らの努力により編集、配布が続けられました。

その後、JA7EBT局等によって、再刊の運びとなり、慢性原稿不足に頭を痛めつつも、一部のOM局のボランティア精神で、編集、印刷、郵送という形で、皆様のお手元に届いている筈です。

現代は、パケット通信のRBBSや、インターネットのメーリングリスト等で、文字によるニュースも、配信されていますが、ミニコミ誌の果たす役割は、重要なウエイトを占めています。

各局、奮って投稿戴き、TWO FORTY誌が、益々発展、継続できるよう応援して下さい。

発刊当時の初期の頃、無線で繋がれば、すぐに「お茶にしましょう」と、アイボールが始まる所から、「TWO FORTY」を、もじって、240は「TWO FOR TEA」と言われました。

(他エリアの参加と、スケジュールQS0)

勤務の関係で、JH1AFX局が2エリアにQSYし、240の宣伝を図ると共に、毎日曜日の朝6時に、スケジュールQS0を実施、回を重ね、ついには、1エリアモバイルが、GWで2エリアとのQS0成功という所まで漕ぎつけました。

又、一方では、2エリア各局も、JA2UVF局を中心に、東海地方50.240MHz SSBモバイルグループを発足させ、3エリアにも、JJ3FPP局により、関西地方50.240MHz SSBモバイルグループがまとめられ、その後、Eスポで、240各局とQS0し、5/8のアンテナを知った局に、資料を送ってやったのがキッカケで、九州牛深市にも、牛深50.240MHz SSBモバイルグループができたり、沖縄県のJR6UTX局、山形県のJH7CQP局、石川県のJA9JUD局、新潟県のJHOAUD

局等が、積極的に、50.240MHzにQRV、電波伝ぱん実験にも参加したりと、全国的な盛り上がりの時期が到来したのです。

その後、2エリア、3エリア共に、グループ内のもめ事があったり、コンディションの低下等とあいまって、現在は、他エリアのアクティビティは下がっています、少し残念に思います。

(グループの分裂)

話は前後しますが、グループが発足して2年を経過した頃、コンディションの急上昇と共に、50MHzバンドの使用状況も大きく変化すると共に、一方で、240グループの運用に対する、他局の誤解、妬みによる、中傷、批判があつたりで、50.240MHzを、SSBに使われ出した、50.350MHzより上の方に移行すべきでは無いかとの案が持ち上がったのです。

然し、余り討議の時間をとれなかった事と、併用的に実施してみようという、当初の考え方が周知されない内に、一部の局が、別の周波数で運用を始めると同時に、人間関係の事等があいまって、あつと言う間に対立的な関係ができてしまい、多くの局が、一時沈黙するというような結果となってしまったのです。

暫時、そんな状況が続く中、これでは、余りにも寂し過ぎると考えた、JM1WRU局が、JH1QIQ局と相談、私を呼出し、何とか元の240に復活させましようと言う事になったのです。

当時は、JM1WRU局も、私も、外回りの仕事が多かったのを良い事に、昼間仕事を怠けて時間を作ったり、夜遅くまでアイボールをするというような連日で、各局に呼び掛け、新生240グループの確立を図り、現在に続いてきました。

この時、このグループは、従来通りに、正式なクラブとしない、50MHz SSBモバイルに興味のある人は、誰方でも参加するのは自由なグループとする、今後の方針その他、何事も、特定の局が独断専行という事の無いよう、紳士的に合議制で進めましようというルールができ上がり、後から参加する人達にも、このルール

に従ってもらいましょうという事になり、「ブレイクは、誰でも、何時でも、何処からでも」の合言葉通りに運用されています。分裂の頃も、その後も、永い間、JIIBGT局が事務局として諸々の雑用から、苦情処理まで引受け、苦勞されました。私にとっては、JH1QIQ局、JM1WRU局、3人で一泊旅行をした事もある思い出多いお二方ですが、残念乍ら、相次いでサイレントキーとなられました。合掌。

（技術講習会での思い出）

現在も、毎年行なわれる技術講習会、何時の講習会も有意義なもののばかりですが、初期の頃の講習会で、JA1MOA局が提唱した、モービル局運用の三原則は、強烈なアピールでした。

これをやらない者は、240に出るなという前置きで、一番目は、アンテナの完全調整、通過型のSWR計での調整の場合、キャリブレーションセットでは無く、フルゲインで指針を目一杯に振り切らせておいて、反射波の指示が、どの位かというもので、計器が故障したと思う程、針がビクリとも動かない所まで追い込めと、極端でした。

二番目はノイズ対策、車のノイズ対策を徹底的にやり、通常の場合はノイズブランカーを使わなくても良いようにしておけという事で、プラグやハイテンションコードを取り替えたり、バイパスコンデンサーやコアをあちこちに挿入したり、エンジンやマフラーその他にアースを張り巡らせたりと、いろいろの対策をやりました。

三番目は電源で、太いケーブルでバッテリーから直接供給する事、然も、最短の配線で電圧降下を防げと、高容量の電解コンデンサーを繋いだりもしました。

何しろ、シガープラクから電源をとっているような局は問題外、モービルからSSBなどともんでもないと言われました。

その他、リグの感度を最高にという事で、受信段のフロントの石をゲインの高い物に交換し、50.240MHzで最高感度を得るようにと、SGを持ち込んで調整しました。

大変でしたが、各局、「より強く、より遠く」のため、大いに燃えていました。

その数年後には、JA1KVN局が設計した、受信プリアンプの製作と、実装で、各局の受信性能が、更にアップしたのも、FBでした。

（電波伝はん実験）

モービル局からの通信距離が飛躍的に伸長し、他エリアのモービル局ともQS0ができるようになった頃、5/8のアンテナをつけたモービル局同士で、どの位の距離まで通信可能か、実験をやりましょうと、話が出たのは、仕事の関係で立川に出張で来ていたJF2XAK局が、JA1FYQ局と共に、私の家に遊びに来ていた時でした。その頃、私はJJ1SXBと一緒に、全国あちらこちらと、ドライブ旅行をしており、1日中ノイズだけしか聞こえなくても、リグの電源は入れっ放し、50.240MHzを常時ワッチ、時々は声を出してみたりで、予想もしていなかった遠距離から、交信できたという経験が数多くありました。

一例を上げると、今では、当然の事ですが、佐渡が島のモービルから、東京のモービル局とQS0できて感激したり、秋田県男鹿半島を走行中に、東京、大宮の固定局とQS0できたり、青森県黒石市をモービル中にも東京と繋がったりして、本当にモービルからでも遠距離交信は可能であると実感していました。

5/8のアンテナのモービル局同士の伝はん実験という事でスタートしましたが、今では回を重ね、色々と問題点も多くなりましたが、原点を忘れず、又、しっかりしたデータ収集と分析、各種アンテナの比較実験等、もっともっと有意義なものとして発展、継続できる事を望んでいます。

又、電波は思わぬ所まで飛んでいます、ここからでは無理だろうというような先入観を持たず、遠方からもどんどん電波を出す事

をお薦めします。

ここ数年は、JA1RZD局、JA1RIZ局がコントロール局を引受け、頑張っていますが、ご苦労様です。

(そして現在)

色々な事がありましたが、現在は、普段のQS0は勿論、月曜日のロールコール及び3月の総会、5月の電波伝ぽん実験、7月の技術講習会、12月の忘年会、その他、幹事グループを2度程務めた、関東モービルハム同好会への参加、その合間の移動運用、そして新設された、モービル賞等々、年間の行事は数多く、活動は順調です。

特に、忘年会は、普段余り機会の少ない人も、年に1回位はアイボールをしましょう、又、日頃迷惑を掛けているであろう家族へのサービスデーにしましょうという主旨で行なわれています。

そんな訳で、家族同伴大歓迎、顔馴染みも多くなって、この忘年会を楽しみにしている家族の方も沢山居て、ちょっぴりドレスアップで出席の家族達とのアイボールも楽しみの一つです。

一時は、2エリアからも、沢山の局が参加し、大人数で大いに盛り上がったものです。

又、この忘年会に出席したのを機に受験し、コールサインを取得した家族の方も多数います。

数年前から続いている、毎月第1土曜日の19時頃より始まる幹事会に出席する局も多く、矢張り「TWO FOR TEA」は生きています。10数局が集まる場合もありますが、用事で欠席の方もあり、普段は5～6局位の出席でしょうか。

顔触れは、JA1BSZ局、JA1RIZ局、JA1RZD局、JK10XY局等、自他共に認める幹事局を初め、JA1EUT局、JA1FYQ局、JA1RTS局、JH1AQZ局、JI1UIP局、JS1XGS局あたりが常連の局で、勿論私も出席します。

幹事会と言っても、ここに参加する局、普段アクティビティの高い局、240の主旨を理解し大事に守っている局、そんな皆様全

部が幹事です、時間がとれる方は、どなたでも 出席して下さい
という主旨で行なわれています。

(終わりに)

現事務局、と言えば格好が良いですが、会計から240誌の編集
その他、諸事雑用係を担当しているJK10XY局、240で知り合った
頃は、現役の大学生で勿論独身、今や2児のパパ、然も、上のお
嬢さんは小学生、歴史をひしひしと感じます。

その彼に、一度こういう物をまとめて原稿にとの要請を受けてい
たのと、資料も分散し、記憶も薄れてきつつありますので、自分
の備忘録のつもりで書いてみました。

以前に、書いたり、話したりしたものと重複しますし、若干の記
憶違いがあったり、或いは時代が少し前後していたりしますが、
大体の推移を御理解頂くという事で、御容赦下さい。

尚、一部の局のコールサインしか出てきませんが、ここに書き切
れなかった多数の局、並びに、この永い間に、CQ誌、モービルハ
ム誌、或いはJARLニュース等にも多くの240関連記事が掲載され
ましたが、240を誌上に取り上げて戴いた、CQ誌の富永氏、モー
ビルハム誌の日置氏、それと、常に240の行事には御協力下さっ
ている、ハム月販(株)の山口氏等、数多くの人達が、240を見守
り、育てて来た事を付記すると共に、種々の歴史を辿って来
た、50.240MHzSSBモービルグループが、末長く、皆様に愛され、
益々発展し、継承されて行く事を、切に希望し、終わりとします。

1997年 6月 by JJ1SXA 池 宏 昭

* 参考…240の申合せ事項、了解事項について

240の運用方法その他について、過去の総会、その他の機会に討議され、決定して来た事項等を参考までに列記します。

時代も推移し、当然見直すべき点もあると思いますが、多くの先達が、永年かけて模索し、築いてきた伝統を守り、生かしていきたいものと思います。

(50.240SSBモービルグループの主旨と概要)

『主旨』

50MHzSSBのモービル運用に興味を持ち、SSBモードの特色を生かしたモービル運用のあらゆる可能性に挑戦し、各種の実験ならびに研究を行い、50MHzSSBモービルの発展に寄与すると共に、全国的な呼出し周波数を確立する事を本旨に、現にモービル局から運用を行っている者、これからモービル運用を予定している者、又、固定局でモービル局との交信実験を行いたい者が、自由参加のグループとして、50.240MHzを呼び出し周波数に設定し、JARL制定のアマチュアコードに則り、常に紳士的な言動を基調として運用する。

『概要』

- 1、オンエアーミーティングを実施し、各種インフォメーションの伝達と、情報交換を行っている。
(毎週月曜日21時おり、50.240MHzにて)
- 2、毎年、総会、電波伝ぱん実験、技術講習会、忘年会のイベントが行われる。
- 3、その他、モービル局を優先し、固定局はモービル局のバックアップに努める事と、QSOの合間にはブレイクタイムをとって、何時でも、何処からでも、ブレイクがかけられるように心掛けながらQSOする習慣となっている。

(50.240SSBモバイルグループ運用心得)

1. モバイル局を優先し、固定局はバックアップにつとめましょう。
2. QSOの合間には、必ずブレイクタイムを心がけましょう。
3. 特定の局と個人的な話題で長時間QSOする場合はQSYしましょう。
4. QSOはルールに従って、楽しい話題を提供しましょう。
5. リグ、アンテナを常にベストの状態に維持しましょう。
6. モバイル走行中のQSOは、特に安全に気を配りましょう。
7. 「サブ周波数」 にQSYしましょう。

(合言葉)

- * 『より強く、より遠く』
- * 『ブレイクは、誰でも、何時でも、何処からでも』

私達、50.240MHSSBモバイルグループのメンバーは、アマチュアコードに則り、運用エチケットを守り、アマチュア無線

運用規範に従って、紳士的な交信、運用をしましょう。

(注)

- ①アマチュアコード………… JARL 制定
- ②アマチュア無線運用規範………… JARL 制定
- ③運用エチケット………… JARL 会員手帳に記載

(その他)

*ブレイクタイムの取り方

- ①QSO中の、話し始めの時、相手には、聞こえている（了解している）事を伝える為、一言返事を発し、一旦PTTスイッチを離し、ブレイク局の有無を確かめる為の時間を空ける。

この際、弱い信号を記K漏らさないように心掛ける事と、習慣として、必ず実行する事。

② 2局或いは、多数の局のQS0が、少し長時間になった場合は、
「他にブレイク局有りますか」とブレイクタイムをとり、待機
しているブレイク局が出られる機会を作るようにする。
(話題、話の流れによっては、ブレイクを遠慮している場合もある
ので、できるだけ、特定の局が周波数を独占することの無い
ように心掛ける)

以上のような事が、過去の申し合わせ事項、了解事項です。
御意見については、幹事局にお寄せいただき、皆さんで合議、検
討し、原点を忘れる事無く、より良く発展の途が展けるようにし
ていきましょう。